



心やすらぎ 未来へはばたく 笑顔のまち 大田区

大田区

面積 61.86km²
世帯数 414,304世帯
人口 736,652人
(うち外国人) 29,202人
予算 3,412億円
職員数 4,221人



シティプロモーションを展開して
いたためのブランドメッセージ



大田区総合体育館
「みる」スポーツと「する」スポーツを基本コンセプトにした大型の体育館です。



大田区立勝海舟記念館
国登録有形文化財である旧清明文庫を保存・活用しながら増築し、全国初の勝海舟記念館を開館しました。

歴史・見所・名所

大田区は、昭和 22(1947)年 3 月 15 日に大森区と蒲田区の合併により誕生しました。区名は両区から一文字ずつ取り命名されました。大森貝塚が示すように、大田区には古代から人々が暮らし、江戸期には海苔の養殖が盛んに行われました。また、東海道の街道筋に当たっていたため、人馬の往来で賑わいました。大正期以降は製造業などの中小工場が集積して戦後の経済成長を支え、現在も「ものづくりのまち」として知られています。昭和 38(1963)年には、海苔の養殖が幕を閉じ、臨海部には羽田空港や大田市場など物流施設が整備されました。台地部は田園調布をはじめ緑の多い住宅地となっています。

関東で最古の五重塔がある池上本門寺や、尾崎士郎、室生犀星、川瀬巴水など多くの文士や芸術家に移り住んだ「馬込文士村」では、歴史を感じながら散策が楽しめます。池上梅園、桜坂、多摩川台公園のあじさい、田園調布のイチヨウ並木、羽田狒師町の風情、蒲田・大森の繁華街、商店街、黒湯温泉なども見所です。

概要

大田区は、日本の空の玄関口である羽田空港を擁する区として、国内外の都市との交流を積極的にを行い、観光や多文化共生などを充実させて、「住んで良し、訪れて良し」のおもてなしの心と魅力があふれる「国際都市おおた」をめざしています。また、勝海舟が愛した洗足池、江戸無血開城に向けた交渉が行われた池上本門寺など、時代の躍動を感じられる史跡にあふれており、令和元(2019)年には全国初の勝海舟記念館を開設しました。高度な技術力を持つ多くの町工場、賑わいのある商店街、田園調布に代表される美しいまちなみや多摩川などの自然、歴史ある伝統文化、手軽に楽しめる多国籍グルメなど、多彩な魅力にあふれ、「東京の縮図」ともいえるまちです。

区内の二つの蒲田駅(JR・東急蒲田駅と京急蒲田駅)をつなぐ新空港線に関して、令和 4(2022)年 6 月に東京都と大田区は基本的事項について合意しました。同年 10 月には大田区と東急電鉄株式会社の共同出資により、整備主体となる第三セクター「羽田エアポートライン株式会社」を設立しました。この新空港線の整備を契機に沿線のまちづくりも進め、区全体がより一層魅力的になるよう取り組んでいます。

主要課題

① 妊娠期から子育て、子育て、教育の充実に向けた施策

こども基本法が施行され、こどもの最善の利益を第一に、こども・子育て支援の拡充が必要となっています。(仮称)大田区子ども家庭総合支援センターの整備など、こどもの権利を守り、健やかな育ちを支援し、こども・子育て家庭を地域や社会全体で支える環境づくりを進めていきます。また、区独自教科「おおたの未来づくり」の新設や国際教育の推進など、教育の充実に向けた施策に取り組めます。

② 大規模自然災害対策

近年、巨大地震や超大型台風等が繰り返し発生し、数多くの人々の生命や財産が奪われています。今後も気候変動等により、大規模自然災害の発生頻度が高まることが懸念されています。安全・安心な区民生活を守るため、大田区はこれらの脅威に備えるとともに、日頃からの普及啓発により、避難が必要な区民が適切な避難行動を取り、また、可能な限り在宅避難に備えられるよう取り組みます。加えて、区の耐震化・不燃化事業の拡充や最大規模の被害想定に対応できる危機管理体制を再構築し、各関係機関や地域との連携を深め、災害時の被害軽減をめざします。

③ 環境・経済施策

令和 32(2050)年脱炭素社会の実現や循環経済、自然再興等の環境施策を総合的に推進するため、令和 7(2025)年度を始期として区の環境部門の最上位計画である「大田区環境基本計画(第 2 次)」を策定します。

また、社会経済状況を踏まえた物価高騰対策を進めるとともに、消費喚起や受注機会の創出・拡大等を通じた事業の継続支援を適切かつ迅速に行い、区内経済の新たな成長に取り組みます。さらに、令和 5 (2023)年 11 月にグランドオープンした羽田イノベーションシティを起点に、新産業創造・発信拠点の形成に向けて、新たなビジネスやイノベーションの創出、日本のものづくり技術や各地域の魅力を発信していきます。

これらの各施策に取り組み、豊かな環境を育むとともに、変革・集積・連携を推進し、「豊かな地域経済が未来に引き継がれるまち」を実現します。

④ SDGs の推進

大田区は SDGs の達成に向けて優れた取組みを提案する都市として、令和 5(2023)年度の「SDGs 未来都市」及び「自治体 SDGs モデル事業」に選定されました。高度な技術を持つ製造業が集積する「ものづくりのまち」と、羽田イノベーションシティを起点に「新産業を創造・発信するまち」という二つの側面を強固に結び付け、大きなイノベーションを生み出すことで区民の生活利便性の向上や革新的な技術・サービスを創出します。さらにこの流れを持続可能なものとし、国内外の企業を巻き込むことで、「新産業と匠の技が融合するイノベーションモデル都市」としての地位が確立した姿をめざします。

将来展望

大田区は令和 6(2024)年 3 月、約 15 年ぶりに新たな基本構想を策定しました。基本構想は、令和 22(2040)年頃の大田区を目指すべき将来像を提示し、今後のまちづくりの方向性を明らかにした、区の最上位の指針です。

【将来像】『心やすらぎ 未来へはばたく 笑顔のまち 大田区』

これまで築いてきた地域のつながりを大切に、暮らす人・働く人・学ぶ人・訪れる人の誰もが、安心して心穏やかな日々を送ることができるまちをつくります。また、子どもから大人まで、誰もが夢や希望をもち、未来を切り拓くことができる活力あるまちをつくります。

【基本目標】(将来像を実現するためのまちの姿)

- 1 未来を創り出す子どもたちが夢と希望をもって健やかに育つまち
- 2 文化を伝え育み誰もが笑顔でいきいき暮らすまち
- 3 豊かな環境と産業の活力で持続的に発展するまち
- 4 安全・安心で活気とやすらぎのある快適なまち

※初めて「子ども」に特化した目標を設定したほか、「環境と産業」を一つの目標に設定したのも産業が盛んな大田区ならではの特徴です。



国際都市の玄関となる羽田空港
アジアの拠点として、日本の玄関口として、首都東京の価値を高めるとともに、おもてなしの心と魅力があふれる「国際都市おた」をめざしています。



羽田イノベーションシティ
先端産業と文化産業の融合が体験できます。



田園調布せせらぎ公園・せせらぎ館

水と緑に囲まれた豊かな自然を感じることのできる公園です。せせらぎ館は隈研吾氏が設計に携わり、公園内の憩いの場として親しまれています。



西六郷公園(タイヤ公園)

海外でも紹介された、タイヤを利用した怪獣やロボットなどのモニュメントや遊具のある公園です。



大田区オリジナルSDGsロゴマーク
SDGs未来都市選定を契機に、区民・企業・関係団体等、多様な主体のSDGsに関する行動変容を一層促し、具体的な取組につなげていくことが重要と考え、大田区オリジナルのSDGsロゴマークを作成しました。